

SE通信③4



来年度の方向性を考える校内研修を行いました。

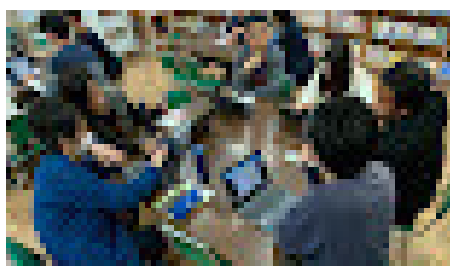
「必須だからこそ、整える」
子どもたちにつけたい力から方向性を考える校内研修

校内研修を行いました

本校では、今年度大阪府の推進事業「情報活用能力を育むモデル校」として取組を進めてきました。
今年度の取組をふり返り、子どもにつけたい力をもとに、来年度に向けて大切にしていきたい方向について話し合いました。

協議の様子

グループで協議を行い、情報活用が身に付いている子どもの姿をもとに、
・どのような力をつけたいか。
・そのために大切にしたいことは何か。
について意見を出し合いました。
それぞれの実践をふり返りながら、本校として大切にしていきたい視点を整理しました。



今年度の取組をふり返って

今年度は、思考ツールの活用やICTを取り入れた学習を通して、子どもたちの考えが見える形にし、互いに共有しながら見て学ぶ取組を進めてきました。

学習の中で、自分の考えを書くことや、友だちの考えを見て学ぶ姿が増えてきています。

一方で、

- ・子どもたちによって理解の進み方に違いがあること
 - ・情報の扱い方やモラルについて継続して指導が必要なこと
 - ・ノートとICTをどのように使い分けるか
 - ・学びの様子をどのように評価していくか
- など、今後さらに工夫していきたい点も見えてきました。

これらをふまえ、今回の校内研修では、子どもたちにつけたい力をもとに、来年度に向けて大切にしていきたいことについて話し合いました。

来年度に向けて



大学の先生からは、これから情報活用能力の育成では、ICTを目的として使うのではなく、学びの質を高めるための手段として活用することが重要であると助言をいただきました。

また、個別最適な学びと協働的な学びを往復しながら、理解を深めていく学習の在り方が求められていること、教育活動の中で一人ひとりの個性をいかしていくことの大切さについて確認しました。

さらに、すべてを同じ形でそろえるのではなく、違いを認めながらも学校全体としての方向性を共有していくことが重要であるとの助言をいただきました。

本校では、情報活用能力の育成を通して、子どもたちの学びの質を高めていけるように、今後も取組を進めていきます。